

特集 「社会を生き抜く力と希望をはぐくむ教育の推進」

——「特別支援教育」研究指定校——

豊かな経験・豊かな関わりを大切にした 特別支援教育の推進 ～インクルーシブ教育システムの視点に立った指導の充実を目指して～



桜区 大久保東小学校 教諭 小幡 拓也

1 はじめに

本校は学区に埼玉大学があり、グローバル・スタディの学習では学校独自の大学生アシスタントが来校して指導に当たる等、地域の特徴を生かした教育実践を行っている。平成27年度に特別支援学級「けやき学級」が開設され、これを機に特別支援教育の学校課題に取り組んでいる。

2 研究の概要

(1) 主題設定の理由

さいたま市ノーマライゼーション条例の趣旨を踏まえ、共生社会の形成に向けたインクルーシブ教育システムの構築を研究の柱に設定した。インクルーシブ教育を推進していくに当たり、同じ場で学ぶ誰もが、豊かな経験・豊かな関わりを通して生きる力を身に付けていくことが重要である。その具現化に向け本校では、全校児童を対象に自立と社会参加を見据え、個別の教育的ニーズに最も応える指導を提供できることを目指して上記の研究主題を設定し研究に取り組んでいくこととした。

(2) 具体的な取組

①ユニバーサルデザインの視点を踏まえた学習環境の整備

【教室環境のUD化実践例】

- ・黒板や壁面等の掲示物を必要最小限にし情報量を意図的に制限することにより、授業に集中しやすくなった。

【人的環境のUD化実践例】

- ・自立活動の内容と関連させ、学習のルールや

人とのかかわり方を大切にし、実生活につながる人間関係の形成やコミュニケーションスキルを身に付けられるようにした。

【授業のUD化実践例】

- ・抽象的な言葉を説明する際に、具体的で身近な場面などを視覚化し、そのイメージや意味を分かりやすくした。
- ・モデル学習の充実を図り児童が具体的な意味イメージをもったり、学習を想起したりすることができるようにした。

②個の教育的ニーズに応じた支援教室の開設

個々の児童の教育的ニーズに応じた指導を実施することで、学校生活や社会生活を円滑に営むための基礎的知識やソーシャルスキルを身に付けさせることをねらい、支援教室（チャレンジルーム）を開設した。要望があった児童を対象に、週一時間、学習指導を中心として個の実態に即した指導を実践している。

3 成果と課題（○成果 ●課題）

○支援教室で、個の教育的ニーズに応じた指導を展開することにより、児童の心の安定にもつながっている。

○教室前面の掲示を整え、視覚情報を制限することにより、教室が変わっても、とまどうことなく学習に集中できるようになった。

●交流及び共同学習がより効果的に実践されるように研究を重ねる必要がある。

●通常学級に在籍する特別な支援が必要な児童への手立てについて、校内委員会等で今後も検討を重ねる必要がある。